

開催日時：平成18年3月13日（月） 10:00～13:00

場 所：大阪府立労働センター（エルおおさか）7階 709号室

出席委員：池淵委員長、井野瀬委員、高橋委員、中川委員、久委員、堀野委員、増田委員、
山下委員

1. 議 題

- (1) 二級河川大川水系河川整備基本方針について
- (2) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

2. 概 要

- 二級河川大川水系河川整備基本方針について

(まとめ)

大川水系の河川整備基本方針について、流域の概要と基本方針に関する地元住民へのアンケート調査の結果を説明した。河川特性の資料及び農林所管のダムの位置付けを整理し、委員会での指摘事項も踏まえ今後審議することとなった。

(委 員) 土砂採石場のエリアが、土砂害の供給源になっているのかどうか、高潮堤防と河川堤防のすり付けはどうなっているのか、また、アンケート調査の結果の位置づけを教えてください。

(事務局) 土砂採石場については、大川の流域外にあるため土砂害などの供給源にはならない。高潮堤防と河川堤防は未整備であるため改修の予定がある。アンケート調査の位置づけは地元住民の意見、意向をある程度反映した形で整備計画を策定するため実施している。

(委 員) アンケート調査を行う時に、「100年に1度の確率」、「高潮の堤防高0.P.+6.00m」などの説明を地元住民にどのようにしたのか。地元住民の理解はどの程度なのか教えてください。

(事務局) 地元住民に対して詳しい概要の説明はしていない。ある程度の傾向をつかむ程度である。

(委 員) アンケート調査を行う時は、近年の災害への対応とした方がリアリティーがあると考え。高潮対策以外に過去の災害への対応は終わっていると理解したらいいのか。また、河道内に多くの植生があるようだが、河床掘削などの予定があるのか。

(事務局) 過去の災害の対応については、復旧工事ということで対応している。河床掘削については、高潮対策区間も含めて実施する予定である。

(委 員) 現況流下能力、河川縦断、河床材料、過去の洪水の水位・流量、整備状況など、大川の特徴がわかる資料を次回の委員会では添付していただきたい。また、高潮対策区間については現況の堤防高などの表現を工夫していただきたい。生態系の資料と既存の堰の位置・高さの関係などの表現も工夫してはどうか。

(事務局) 記載方法を検討して次回の委員会では添付する。

(委員) 大川は他の都市河川とは自然環境などの条件が異なるため、たとえばアンケート調査結果の「自然豊かな川にしてほしい」の意味が市街地を流れる川とは違うことを十分検討する必要がある。また、アンケート調査を行うときは、その結果で河川整備のヒントになるように質問の仕方を工夫するべき。

(委員) アンケート調査の結果からは、地元住民は川に余り興味を持っていないという印象を受ける。大川ではまず地元住民が「私たちの川」として関心を持てるようにした上で、その意見に答えていくというようにできればよい。

(委員) 上流域の孝子地区については、河川状況としても中途半端なところ。集落部分をより自然に近づけることにより、自然環境豊かな親水空間の位置付けが高まっていくのではないかと。今後検討していただきたい。

(委員) 農林部局所管のダムに洪水調節機能があるということだが、違う部局の施設をどう扱うかなど今後の委員会で議論していきたい。

(事務局) 既存施設の有効活用という視点から、農林部局と調整し整理していきたい。

(委員) 雨が比較的少ない地域ということと、河道内の植生もかなり多いため洪水があまり発生していないのかなという印象がある。治水対策の必要性を整理していただきたい。

○ その他 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

(まとめ)

神崎川ブロックの整備内容や維持流量について、河川整備計画(案)をもとに審議を行った結果、今回の指摘事項や、これまでの委員会意見を踏まえ、支川の整備内容も含めて、河川整備計画(原案)を作成し、次回審議することとなった。

(委員) 「神崎川上流」の整備後の流量が1100m³/sとなっているのに対し、上流の「安威川下流」が1250m³/sとなっている。ここのつながりがわかりにくい。

(事務局) 安威川では1250m³/sの処理できる断面が確保されていますが、神崎川の水位の影響で、HWLでは1250m³/sは流しきれない。ただ、堤防の嵩上げなどの対応で余裕高も加味して流下できるようになっている。整備計画での表現は整理する。

(委員) 対象期間15年間では、安威川の場合は、神崎川のような段階的整備ではなく長期目標を目指しダムを整備するということだが、15年以降もふまえ河川管理者のスタンスを説明してはどうか。

(事務局) 神崎川の目標としている40年に一度の降雨で発生する洪水に対して、ダムは水位低減効果が非常に高い。整備計画での表現は整理する。

(委員) 下流は橋梁がネックになっているが、橋梁の話は河川だけでできるわけではないので道路部局などと連携するようなことを書いてはどうか。また、河川維持に関して「神崎川河畔協議会」という企業体で積極的に活動している事例もあるので整備計画の中で記載してはどうか。

(委員) 橋梁の桁下がHWLより低いものがあるがこれはどうするのか。

(事務局) 桁の形状で一部HWLより低いところがあるようだが再度確認する。

(委員) 最大流量に直接影響する4時間雨量などでは500年に一度を超える規模にも対応しているので余力のある計画である、ということも書いておいた方がよい。

(委員) 計画諸元表だけでなく、今までの議論の内容を資料として添付していただきたい。

(事務局) 基本とする高水(群)など治水計画で議論した内容を記述する。

(委員) 今までの議論で内水域に対する検討も行ってきている。内水被害が問題となる流域でもあるので、内水についても記述しておかないといけないのではないかと。関係機関との連携の中で、河川整備計画で記述できる限界もあるが、下水道事業の計画にもふれ、流域全体としてどうなるのかという記述をしていただきたい。

(事務局) 流域市と調整してできるだけ記述していきたい。

(委員) 維持流量について、前回案は生物の分布特性に合わない、結論が先にある数字であると考えた。今度は他のダムとの比較で説明しているが、安威川にとって適切かどうかの疑問はのこる。しかし、考慮すべき魚を変えて維持流量を計算しても下流の流量変動も上流端の位置もほとんど変わらないと言う説明を受けたので、他の対案も無いことからこれでよいかと思う。河道形態のための放流計画ではダム上流の環境への影響も考慮して策定していただきたい。

(委員) これまでの委員会で計画高水を決定するにあたっては、各洪水処理方式での環境・社会影響比較や事業費比較、利水計画などをループしながら議論してきた。この考え方のフローがないと、今までの議論の内容が見えないので資料作成にあたっては検討していただきたい。

(委員) 流域面積と維持流量は概ね比例するようだが、マニュアルに従って作ったものがここまで相関性があるのか。

(事務局) 今回、全国の都道府県と国、水機構にアンケートを実施しマニュアルに沿った事例を集めたものである。相関性の分析はしていないが、データは信頼できるものである。維持流量については総合的に判断して決定している。

(委員) 正常流量の記述については、検討の内容をわかりやすく記述したほうがよい。また、流域対応についての議論もしているので記述していただきたい。

(委員) 河川情報の提供について、資料中の写真はアウトドアをイメージさせるもので、川とつきあうのは屋外に出なければいけないというようなイメージを植えつけてしまう。住民と川との距離が近くなるように、さまざまなつきあい方を大阪府として提言していただきたい。